

クローズアップ

NGO・NPO

国際協力 NGO

ネパリ・バザー口

NEPALI BAZARO

「フェアトレードを超えて」

国際協力は地域から発信

貧困を改善するには、技術協力のみならず、市場へ繋げて経済的自立を図ることが必要です。その自立支援活動を始めて一八年が経ちました。活動の拠点は神奈川県横浜浜市にあります。神奈川県は、フェアトレード促進提言を受けて推進を図ろうとしています。横須賀市が、市長決裁を得て、国際式典に使うコーヒーはフェアトレードによるものを使用するなど積極的に取り組んでいます。教育分野でも、県立神奈川総合高校がネパリ・バザー口と協働で東ネパールの紅茶農園の子どものための教育支援をし、国際理解教育と国際協力の実践をしています。更に、近隣の大学生協にもフェアトレード商品導入の動きは広がっています。私たちの活動が、公的機関、教育へとつながった背景には、ネパリ・バザー口の直営店がある神奈川県立地球市民かながわプラザの存在がありました。

市民グループも、ヒューマンサポートネットワーク厚木が保育園や老人介護施設、海外支援リサイクルショップなどの事業展開をするなかで、フェアトレードを取り込む等、活発な動きがあります。各地にあるフェアトレードのお店やお店を通じて市民がその国際協力の動きを支えています。ネパリ・バザー口の活動への共感や共感も、沖縄キリスト教大学院大学の学内NPOのネパールでの活動に繋がって

います。また同じアジアの韓国、台湾にも共感の輪が広がり、フェアトレード組織の立ち上げに協力してきました。その源泉は、一人ひとりが世の中を変える力になる、という可能性と希望です。地域から発信する国際協力の姿がここにあります。

ネパリ・バザー口の活動内容

(1) 起業の経緯

一九九〇年頃、ネパールに於ける女性の自立と子どもの育成支援の活動を始めました。しかし、現地の状況を知るにつけ、様々な問題の背後には深刻な経済問題があることがわかり、雇用機会を創出し経済的自立を支援するため一九九二年八月にネパリ・バザー口を設立し、女性たちや小規模農家など、より厳しい環境の人々との貿易を開始し、現在に至っています。

(2) 仕事内容

ネパールを対象国とし、頻繁に現地へ赴き、生産者やその生活地域の調査、生産者の状況にあつた製品の企画開発をしています。商品開発から地域開発まで、食品も衣料品も栽培レベルから製品化、そして、輸入、販売まで一貫して実施しています。農産物の有機農法への強い動機付けも行いました。例えば、ネパールのコーヒー、スパイスで有機証明第一号を取得、それはコーヒーの政府レベルでの有機農業転換の動きに繋がりました。福祉面では、生産者の家庭を訪問し、きめ細かいフォローから財形

(国際協力NGO) ネバリ・バザール

〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 4-10-15

TEL 045-891-9939

FAX 045-893-8254

代表：土屋春代 URL：http://verda.bz/



↑奨学生と道を歩く

える関係は何より大切にすると

活動は、提携型フェアトレード組織の中でも生産者視点

貯蓄制度の導入など、場合によっては、生産者の近隣地域の困窮した家庭への教育支援策を行うなど、内容は多岐に渡っています。日本の伝統である紙布をネパールの手漉き紙で製品化したのを始め、柿渋染めを現地に導入しています。このような日本の伝統技術を活かしたユニークな開発は、世界に誇れるエコロジー技術でもあります。事務所では、カタログ編集、販売管理や顧客管理、在庫管理や会計のソフト開発、経理、デザイン、商品開発、営業、広報、イベントや開発教育、インターンの受け入れも積極的に実施して、日本の学生のみならず、外国籍の学生、海外からの学生も在籍し、活発な議論が事務所の雰囲気を感じ上げています。

(3) パートナリシップトレード

フェアトレードは、企業にラベル表示を許可する認証型と、私たちのような生産者と密接に関係を持って活動する提携型に大きく分けられます。ネバリ・バザールの活動は、提携型フェアトレード

てパートナーシップトレードという言葉を使っています。フェアトレードという言葉では言い表せないものがここにあるからです。他にもネバリ・バザール独自の取組に、福祉作業所との連携による商品作りもあります。生産者が収穫した材料をベールに、キーキやクッキーを作っています。障害のある方々の仕事作りにも役立ちます。この発想に、お隣、韓国の団体も影響を受け、実践しています。

今後の課題、抱負

世界には様々な問題があります。その問題はとも大きく、政府レベルでも解決が困難なことが少なくありません。しかし、世界は経済で緊密に繋がりが影響しあっている。消費者は様々な課題を解決する可能性を持っています。私たちの立場は、その消費者の選択肢を用意することでもあります。ハンデがある生産地、不安定な社会に生きる人々にとってはどんなに努力しても埋められない限界があり、それを克服するお手伝いは私たちの使命ですが、優秀な人材、環境、資金を活用できる一般の企業との力は比べようがありません。それでも、弱者視点を失わず、皆が安心して暮らせる心豊かな社会、地球環境への負荷を減らす持続可能な社会の実現に向けて少しでも役立てるよう、今後とも粘り強く挑戦して参りたいと思います。

経済的自立支援の項目

項目	内容	備考
前払、立替	財政支援	農民への即時支払、有機証明取得費用負担が大きい
女性の自立支援	女性協働組合、女性起業家支援	消費者協同組合の動きあり
現地技術指導	染め、紙布、変化織、柿渋	必要の都度
日本での技術指導	手編み、縫製、パターン	年2回×2名
品質向上(特に服作り)	継続的な技術指導とフィードバック 優秀者の表彰	生産者のやる気向上
素材開発	地元の素材開発(紙布、オーガニックコットン、柿渋、草木染め)、アゾフリー	魅力ある服作り、農村部の収入向上と将来の展望
地域開発	環境保護と村人の収入向上、有機農業モデルの実践と啓蒙	国際協力機関が目指す新概念。地域全体の活性化、有機農業の促進

コミュニティー開発支援の項目

項目	内容	備考
財形貯蓄制度導入	コープ銀行へ積立で預金 女性の意識向上 将来への蓄え	女性起業家の社会貢献意識が向上、働く人々が資本家としての視点を得る
新組織の設立	協同組合設立支援	コーヒー、スパイス
雇用拡大	個人レベルから組織へ	数人で始めた工房も、30人規模のところが多い
設備投資	流通、基盤整備支援	オーガニックコットン
村と都市部の連携	異なる組織間の協働で商品を創り上げる	スパイス、オーガニックコットンは、農民と町の工房の連携により達成
福祉プログラム	奨学金支援	現地のやる気を起こし、地域周辺の開発に貢献
外国の市場開拓	韓国、台湾の市場拡大に協力	生産者と市場を繋げて、直接、間接に市場拡大に貢献
生産技術の向上	草木染め、アゾフリー導入、変化織り	安全、多様な市場ニーズに対応

クローズアップ

NGO・NPO

環境=文化 NGO

ナマケモノ倶楽部

スロー × ローカルであたらしい文化創造を

ナマケモノになるっ！

ナマケモノ倶楽部は、一九九九年七月に発足した市民団体です。森の菩薩ナマケモノの生き方（低エネルギー、循環共生型、非暴力・平和）に学ぼうと、個々人の「暮らし＝ライフスタイル」に焦点を当てて活動しています。

会員は全国に七〇〇人。これまで、南米エクアドルとのフェアトレード（生産者との「つながり」を大事にした取引）やエコツーリズムを通じて四つのスロービジネスを生み出し、また二〇〇三年からは夏至と冬至の二時間電気を消すことを呼びかける「二〇〇万人のキャンドルナイト」を提唱、今では国民運動へと発展しました。

ナマケモノ倶楽部は、環境＋文化＋エコビジネスを融合させた多角的な運動をめざしています。

スローは「つながりなおし」。人と自然人と人、人と地域をつなぎなおすキーワードです。一昔前の日本に存在していた地域の固有性、里山



といった自然と人との共生、ご

近所づきあいのような助け合い・分かち合い、そんな文化や価値観を取り戻していく作業が

「スローライフ」です。

「ゆる（べき）こと」を羅列して「スローライフ」をはじめめる必要はありません。すべきことは、さらなる消費を促したり、私たちを急かしたり、あるいは疲弊させたりします。私たちはつい「がんばってしまおう」傾向にあるようです。いつそのこと「ゆるべきこと」を考えるより、「しないこと」を考えてみてはどうでしょう？ その発想の転換です。

提案型のライフスタイル変革運動

ナマケモノ倶楽部では、誰でもすぐに実践できる「ZOOONY運動」を提唱してきました。「ズーニー」と読み、「〜せず」の「ず」に由来しています。「〜せず」いけない」で終わるのではなく「〜せず、じゃあどうするのか？」と、その先を自分でソウゾウ（想像・創造）していく提案型の運動です。

たとえば、自動販売機を使わずズーニー、水筒を持ち歩く。割り箸を使い捨てずズーニー、マイ箸を持ち歩く。たまには電気をつけズーニー、ローソクの灯りを楽しむ…。ZOOONYは「やせがまん」ではありません。むしろその方が心地よい、楽しいとハマってしまう不思議な魅力があります。達人になると「手間かける」というささやかな時間に喜びを感じるようになります。その二手間に込められた「今、ここ」こそ、スローなのです。

(環境=文化NGO) ナマケモノ倶楽部

〒136-0072 東京都江東区大島6-15-2-912 TEL&FAX 03-3638-0534

E-mail : info@sloth.gr.jp URL : http://www.sloth.gr.jp/

「スローカフェ」という場づくり

環境に関心をもつ若い人、子育て中のお母さん、健康に不安を感じはじめた熟年夫婦、彼らの理解を得られるクオリティで、しかも地球にやさしい。そんなZOOONY商品として、今、実際にマイ箸、オシヤレな水筒、石油ではなく蜜蝋を使ったローソクなどの商品開発がすすめられています。

ナマケモノ倶楽部設立当初から「ビジネス」という視点がありました。現代の私たちの生活に円は不可欠です。単に企業を環境破壊の悪者と批判するのではなく、自分たちであららしいビジネスモデルをつくりだしていけばいいと、二〇〇〇年夏のスロー社設立にはじまり、四つの会社を立ち上げてきました。

その中でも二〇〇一年に東京都国分寺市にオープンしたカフェスローは、スロー運動を広めるのに大きな役割を果たしてきました。ナマケモノ倶楽部が掲げる「スロー」をメニューで、書籍やフェアトレードの雑貨で、店舗内装で、スタッフの雇用と経営で具現化しているからです。カフェでは二〇〇万人のキャンドルナイトの先駆けとなる「暗闇カフェ」が毎週金曜に開催され、また音楽ライブやトークイベント、手作りワークショップといったコミュニティカフェとしても機能してきました。嬉しいことに、全国から「私たちもこんなカフェをつくりたい」と視察があいつぐようにな

り、福岡、大阪、長野、北海道、愛知で、その後若者たちがカフェを起業しています。その動きは二〇〇九年「スローなカフェのつくりかた」(自然食通信社)にまとめられました。

「スロービジネス」のキーワードを三つ挙げるとすれば、「持続可能」「フェア」「分かち合い」でしょう。「持続可能」とは自然、社会、自分のどれもが相互につながりバランスの取れた状態です。たとえば、有機栽培は生態系に負荷をかけず、生産者や土地への農薬汚染もなく、また消費者も安心して食べることができる持続可能な農業です。

「フェア」とは、相手を騙したり自然や他人から収奪したりするのではなく、公正な関係でビジネスをすることです。後ろめたさを感じながらビジネスをする必要はありません。そして「分かち合い」。自然の恩恵、利益、仕事、情報や知恵、喜びなどを仲間と分かち合うことは、「精神的な豊かさ」や「安心」「信頼感」にもつながるでしょう。



↑「北のハチドリ」オープニングを祝う人々

自治体との協働という点では、二〇〇九年五月に東京都北区とオープンさせ

た「北のハチドリ」が注目を集めています。北区とナマケモノ倶楽部から起業したスローウォーターカフェ(有)による協働事業で、地域住民にフェアトレードや環境配慮型の暮らしを伝える場として、またお年寄りやお母さんたちが集うコミュニティスポットとして機能しています。

スロー×ローカルを基軸に

日々、私たちが耳にする環境問題は深刻です。気候変動、砂漠化、森林減少、種の絶滅…、地球規模で飛び込んでくるニュースの数々に、私たちに解決の一端が担えるのか、自分たちの小さな行動が本当に役に立っているのか、と自信をもてなかつたり、不安になったりするかもしれません。

しかし、こんな時代に巡り合わせて生きていますが、私たちは環境問題を解決するために生まれてきたのではなく、生まれてきたのです。だとしたら、自分の暮らす地域で、家族と、職場と、町の人とながって、地域に根差した暮らしを営むことで、完全な自給自足とはいかないまでも、地球に負荷をかけない暮らしへと自らがコミットすることができないのではないのでしょうか。そのカギを握るのがスローなつながりという概念とローカル(地方)だと思えます。自治体が様々なステイジで、そのうねりを後押ししてくれることを期待しています。